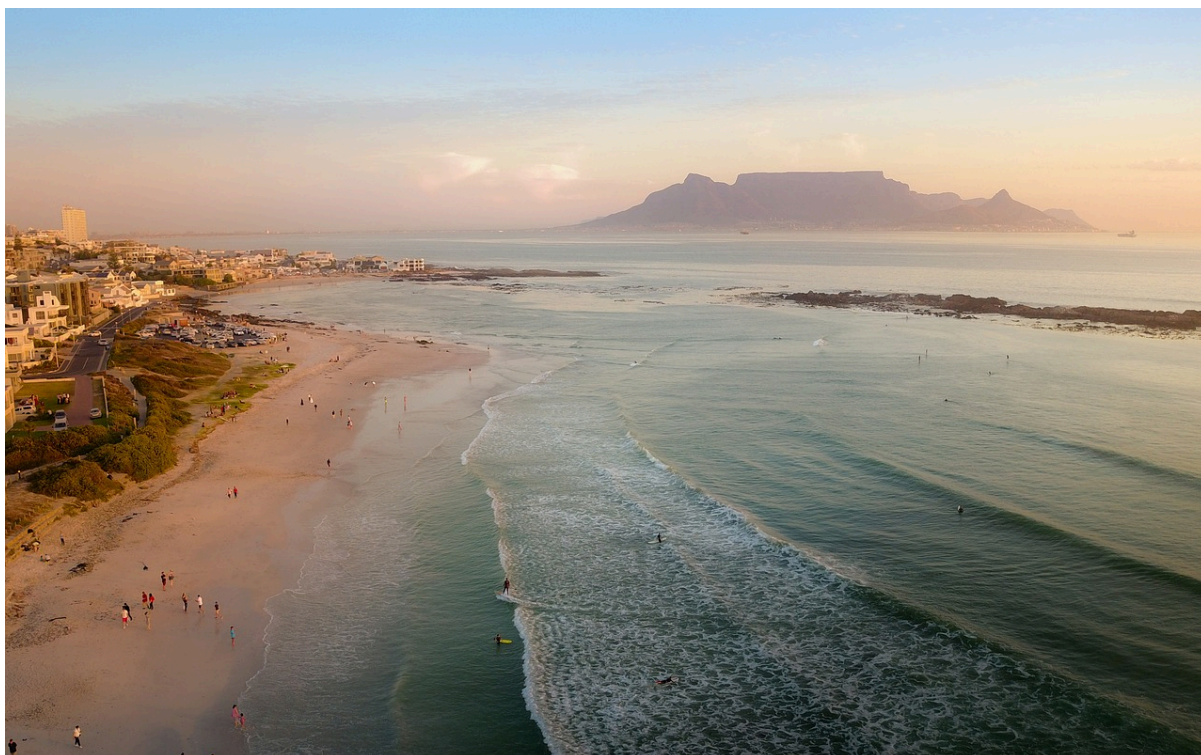


NTDs

勉強会運営報告書

2023年12月-2024年1月



目次

勉強会概要	3
勉強会の概要	3
勉強会の到達目標	3
講演者一覧	4
勉強会日程一覧	4
勉強会報告	5
「NTDs総論」グループサマリー	5
「リーシュマニア」グループサマリー	5
謝辞	7

デジタルヘルス担当班 編

NTDs総論担当

轟木亮太 大分大学医学部医学科
上杉優佳 東京大学医学部医学科
大城健斗 熊本大学医学部医学科

リーシュマニア担当

北村亜依香 鳥取大学医学部生命科学科
城田真希 長崎大学医学部医学科

本報告書における発表内容は、その責任と著作権を日本熱帯医学会学生部会が所有します。その内容のすべて、あるいは一部を、無断で複製・転載すること、インターネット等で掲載することは、理由の如何を問わず権利の侵害となります。あらかじめご了承ください。

勉強会概要

勉強会の概要

コロナ禍を経て、我々学生の国際保健に対する興味は高まっている。日本の国策としてもUHCの推進を明言するなど、世界的に国際感染症に対する施策を強化する流れがあ

る。このような情勢を踏まえ、いわゆるラストワンマイルが重要とされるNTDsについて、その概要と解決に向けての課題を学びたいと考えた。NTDsの個々の疾患について知識を持つこと、およびNTDsの概念として解決策を考える意義について、「全体と個々」の二段構成とすることで、NTDsについて多角的に考える機会とした。

また日本がNTDsの課題解決に関わるにあたって、日本の世論や政界関係者におけるその認知度の低さは多くの場面で障壁となっている。NTDsについて日本国民である我々が考える意義と、具体的な解決策をテーマについて、熱帯医学に興味を持っている我々学生から主体的に考える機会を持つことが第一歩であると考え、学生同士でDiscussionする場を設けたいと考えた。

勉強会の到達目標

1. NTDsの全体像、およびその課題を知る

NTDsには20以上の疾患があり、これらの疾患は個々では罹患者が少なく顧みられないために、WHOが『顧みられない熱帯病』と総称することでその解決を推し進めようという意図からつけられた名称である。NTDsとしてまとめられて解決策が講じられる一方で、各疾患及び各国の解決状況に応じた支援を行う必要がある。この2方向からの解決をどのように推し進めていくべきか、また解決策を講じるにあたり問題点は何かなど、公衆衛生的な観点も交えながら議論する。

2. NTDsの個々の疾患に対するアプローチを知る

先述した通り、NTDsには全体論的な支援と同様に各疾患に応じた支援策を行う必要がある。今回はリーシュマニアを具体例として取り上げ、リーシュマニアに対するワクチン開発をテーマに学習する。この勉強会を通して、先述の公衆衛生学的視点とは異なった、医学生物学的な研究がNTDs解決に向けできることについて触れる。

3. 国際保健分野の問題について主体的に解決策を考える

国際保健は世界的な問題として様々な会議で取り上げられるようになった一方で、いまだ身近な問題として感じられる機会が少なく、世論や政界を見ても積極的な議論を講じられている場面はまだまだ少ないと感じる。今回の勉強会では学生勉強会、講演会を通して得られた知識をもとに、『我々日本人がNTDsについて議論する意義』および『NTDsの問題について具体的な解決策』を考える機会を用意することにより、学生が主体的に国際保健を議論する場を設ける。

講演者一覧

NTDsの課題

長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科 准教授 / JAGntd副事務局長
吉岡浩太先生

リーシュマニアのワクチン開発

長崎大学熱帯医学研究所 寄生虫学分野 教授
濱野真二郎先生

勉強会日程一覧

12/13 19：00~ 学生勉強会
12/20 19：00~ 専門家講演会
12/26 19：00~ Discussion Part

1/18 19：00~ 学生勉強会
1/24 19：00~ 専門家講演会

勉強会報告

「NTDs総論」グループサマリー

2023-2024の第2ターム「NTDs」における、1つ目のサブテーマである「NTDs総論」に関して、2回に渡る勉強会、及びDiscussion Partを行いました。NTDsとは何か、その問題点と世界的に行われている取り組みについて学びました。

12月13日(水)に行われたWeek1の学生勉強会では、「NTDsとは_基本と課題」と題し、国際保健やUHCなどの観点から注目度が高まりつつあるNTDsの基本知識、およびその課題について学びました。NTDsに含まれる各疾患の紹介はもちろんのこと、公衆衛生的問題や財源、支援の問題など幅広く取り扱いました。

12月20日(水)に行われたWeek2の専門家ご講演では、長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科 准教授 / JAGntd副事務局長でいらっしゃいます、吉岡浩太先生にお越しいただきました。先生のご専門である公衆衛生学的な視点や必要なfundingシステム、また日本におけるNTDsの現状をまとめた最新のreview論文についてもご紹介いただきました。NTDsの話題に関しては日本でも「国際保健への投資、途上国のためにする援助」と考える方がほとんどですが、日本は国際保健を主導する国としてUHCを推進しており、こういった日本の現状を国際保健に少しでも興味のある国会議員の方々に知っていただくのは大変有意義だと考えました。日本がNTDs対策の中で担える役割やその可能性についても、新たな視点をいただくことができました。

12月26日(火)に行われたWeek3のDiscussion Partでは、世界NTDsの日に実施された学生向けコンテストに応募することを目標に、NTDsの問題点について主体的に考え、解決策を論じる企画を立ち上げました。残念ながら参加者は非常に少なくなってしまいましたが、NTDsをはじめ国際保健に関して我々がまだ知識不足であること、また今後NTDsについてより多くの人に知ってもらうためにどのような情報共有の仕方、情報リソースが必要なのかなどを考える貴重な機会となりました。

文責：上杉優佳

「リーシュマニア」グループサマリー

1月18日(木)に行われたWeek4の学生勉強会では、week5で行われる「リーシュマニアワクチン」に関する濱野先生のご講演をしっかりと理解できるように、以下の項目について学びました。1) リーシュマニアの基礎知識 2) ワクチンにおける免疫学 3) ワクチンの仕組み、各種ワクチンの特徴 4) リーシュマニアワクチン。特に、ワクチンに関しては、リーシュマニアワクチンにおいて関わってくる、獲得免疫、細胞性免疫、Th1応答について理解を深めました。

1月24日(水)に行われたWeek5の専門家ご講演では、長崎大学熱帯医学研究所 寄生虫学分野 教授である濱野真二郎先生に、「リーシュマニアのワクチン開発」をテーマにご講演して頂きました。濱野先生は、リーシュマニアや住血吸虫など、NTDsにおけるラボとフィールドでの研究活動で活躍されています。今回は、リーシュマニアワクチン開発の現状、研究内容に加えて、NTDsに貢献する意義などについてお話しして頂きました。リーシュマニアワクチンは、ゲノム編集により弱毒化したリーシュマニアを生ワ

ワクチンとして投与するワクチンです。現状として、GHITの予算によりプロジェクトを進め、各国の大学や機関と連携して、開発研究や臨床試験が流行地域にて実施されています。開発において、先生が今まで培ってこられた免疫学、基礎研究、感染症の知識、海外での人との繋がりなどが結びついてこのような大きなプロジェクトに繋がったとおっしゃられていたのが印象的でした。また、NTDsに貢献する意義として以下のことを教えて頂きました。”NTDsは致死性ではないが、慢性化する疾患であり、罹患することで障害を持って生き続けなければならない。NTDsの罹患による障害は生産性を低下させ、貧困を引き起こす。貧困が不衛生を生み、さらなるNTDsの罹患を引き起こす。その連鎖を止めるために、NTDs対策へのアプローチが必要である。その中で、アカデミアが貢献できるのがワクチンや薬、診断法の開発などである。さらに、アカデミア、行政、地域が連携していくことが大事である。” NTDsの基礎研究や薬、ワクチン開発の仕組み、各国との連携など普段の授業では習えない貴重なお話をお伺いでき、学生への良い刺激となりました。

文責：北村亜依香

謝辞

最後になりましたが、ご多忙の折にご協力いただきました、長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科 准教授 / JAGntd副事務局長 吉岡浩太先生、長崎大学熱帯医学研究所 寄生虫学分野 教授 濱野真二郎先生、平素よりお世話になっております、熱帯医学会会長 山城哲先生に心から御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。